

第1回 加美町総合計画審議会 会議録

- 1 開催日時 令和6年3月26日(火) 10時から
- 2 開催場所 加美町やくらい文化センター 小ホール
- 3 出席者 26名

○加美町総合計画審議会 構成メンバー

学識経験者(宮城大学 教授)	平岡 善浩	委員	互選により会長
同 (町教育委員)	野村 清正	委員	
同 (町農業委員)	杉村 昭宏	委員	
同 (前代表監査委員)	小山 元子	委員	互選により副会長
同 (東北大学 名誉教授)	牧野 周	委員	
公共的団体(加美商工会)	松倉 裕樹	委員	
同 (町社会福祉協議会)	早坂 家一	委員	
同 (町スポーツ協会)	早坂 こずえ	委員	
同 (町区長会)	佐藤 宮男	委員	
同 (町交通安全母の会)	小林 貞子	委員	
一般町民(町観光まちづくり協会)	佐々木嘉昭	委員	
同 (にぎわいづくり委員会)	高橋 庸介	委員	
同 (町PTA連合会)	今野 英俊	委員	
同 (町商工会青年部)	大沼 宏伸	委員	
同 (町商工会女性部)	佐々木奈緒美	委員	
同	田中 草太	委員	
同	松本 結依	委員	
同	小山 久美子	委員	
同	岸田 紗季	委員	
同	今野 聖子	委員	
同	近田 利樹	委員	
同	澁谷 とも子	委員	
同	伊藤 絵美	委員	
同	伊藤 千紘	委員	
同	早坂 龍柊	委員	
同	宮野 謙	委員	

・欠席者 4名

公共的団体(加美郡医師会)	鈴木 潤	委員
同 (加美よつば農協)	工藤 義也	委員
同 (町婦人会)	本多 洋子	委員
同 (町文化協会)	渡邊 哲	委員

4 説明のため出席した者

○事務局

企画財政課	課長	佐々木 実
同	課長補佐	太田 裕二
同	主幹兼企画政策係長	菅原 敏之
同	主査	佐々木 佑介
同	主事	中楯 有香
小野田支所	支所長	内海 茂

5 議 事

(1) 委嘱状交付 石山町長から野村清正委員へ代表受領

(2) あいさつ 石山町長

(3) 委員自己紹介及び事務局職員紹介

(4) 会長及び副会長の選任

互選により会長を平岡 善浩 委員、副会長：小山 元子委員に決定した。

(5) 諮問 石山町長から平岡会長へ諮問書交付

(6) 議事

1) 加美町総合計画審議会会議運営要領（案）について

→ 案のとおり承認

2) 加美町総合計画の策定について

→ 概要は以下のとおり

6 その他

次回開催予定日 第2回は令和6年6月頃を予定

7 閉 会 12時 8分

議事1 総合計画審議会会議運営要領（案）について、事務局から説明。

→委員から異議なく、案のとおり承認された。

議事2 加美町総合計画の策定について、事務局より説明。

審議会長 ご説明ありがとうございます。只今資料3に基づき、総合計画の役割と位置づけの説明を頂きました。ここはすごく大事なところでございますので、どんなご意見でも構いませんので、委員の皆様方から意見を頂きたいと思います。はいどうぞ。

委員 2点お尋ねしたいんですけども、町民との協働というところが非常に重要だと思っておりまして、調査の整理というのはあるんですが、町民ワークショップの開

催というのは、どの期間でお決めになるのか、町民に対するワークショップはどの程度想定をされているのかということが1点と、あと、資料の方にございます総合戦略というものがありますけれども、ちょっと私、総合戦略と総合計画との関連性がわからないので、そこを教えていただければと思います。

事務局 ご質問ありがとうございます。1つ目の質問については、まず私の方から説明させていただきます。委員さんおっしゃったように町民との協働は非常に重要なところだということでご説明させていただきました。スケジュール等についてですね、まずはアンケート調査の実施。ワークショップにつきましては、今のところ2回程度を想定しております。今日の会議を踏まえてですね、いろいろご意見等もございますので、早い時期とある程度素案が固まってきたあたりでのワークショップというふうに考えております。まずは5月6月くらいに開催していきたいと考えています。必要に応じてその2回が3回になるかというのは、もうちょっと進めながら調整していきたいなというふうに考えております。

事務局 2点目の総合計画と総合戦略の違いについて、ご説明させていただきたいと思います。本日は皆様の資料にもお配りさせていただいておりましたが、第2期の総合計画笑顔幸福プランの中におきまして、まちづくりの重点プロジェクトに関する項目がございます。ちょっと配布している資料だと何ページっていうのが、ちょっとパッと出てこなくて申し訳ないですけど、おそらく36ページ前後くらいにあるのかなと思われるんですけども、総合計画の中のまちづくりの重点プロジェクトという項目がございます。そちらの方に里山経済の確立、健幸社会の実現、子ども子育て応援社会の実現というですね、この10年間で重点的に進めていく3つのプロジェクトを抜き出しております。総合戦略におきましては、この3つの重点プロジェクトを進めていくための計画となっております。総合戦略を定めることによりまして、国の地方創生に関する交付金といったようなものを活用することができるようになっております。町の総合戦略におきましては、国の総合戦略に基づき、まずは東京一極集中を是正しようという旗柱のもとに、移住定住の促進といったようなのを大目標に掲げて、5年ごとの計画で作成をさせていただきました。その総合戦略に基づきまして、例えば過去の取り組みですと国立音楽院の誘致の方をさせていただきました、加美町の人口のボトルネックとなっております。10代後半の移住促進に向けた取り組みなんかは国の交付金なんかを活用させて、展開させていただいたところでございます。総合戦略も今回総合計画と同じ終期を迎え、今年度で終わりとなります。今回第3期の総合計画を皆様に作っていただく中で、特に具体的に重点的に進めていくプロジェクトといったようなのをご検討いただきまして、そこを推進していくために、総合戦略の改定といったのを、具体的に進めてまいりたいと思っておりますので、皆様からのご意見を頂戴できればと思っております。

審議会長 今ご質問いただいた住民ワークショップの件は、すごく大事だと思います。今資料3のところの何ページになりましたか、5番の策定体制のところをご覧いただ

ますでしょうか、基本的には策定体制が1から4までございますけれども、1が今我々が集まっているこの30人ですよね。2、3、4のところは基本的には庁内組織での議論になるじゃないですか。そうするとここの場が、住民の皆様方が集まって発言する機会になってしまうので、あとはアンケートになっちゃうんですね。住民ワークショップがどういうふうにかかれるか、というのがすごく大事なところで、まだその時期としては、やっぱり5月、6月ぐらい早めにやるという感じですか、後の方になってやってもしょうがないですもんね。開き方が結構大事で、例えばですね、3地区でそれぞれやるべきなのかとかどうでしょう。委員、前はあったんですか。

委員

前回ワークショップがワールドカフェというやり方で、地区は分けないでですね、鳴瀬の交流センターの方でやったんですけれども、あの時はまだ策定の深まる前のもやっぱり前段で1回あったんですね。やはりそれがどういう形になっていくのかという後半も、やはり検証が必要かもしれないですね。そういうのが必要かなというふうに思いますので、全体で住民の声を拾い上げることと、それから後半にある程度できたところで検証していただくという、先ほど事務局がおっしゃった形で、私もいいなというふうに思います。一番大切なことはですね、やはりいろんな会に参加しているんですが、冊子が出来上がって終わりということがほぼほぼで、その審議会に参加している人たちの意識が非常に高く理解はされる。理解はされるんですけれども、一般の町民の方々に周知されないということが多いです。ですので、そういう意味でワークショップを開催するというのは非常に重要なことかなというふうに思いますし、そのワークショップを開催するときに、やむするといつも同じ方々が参加しているということがあるので、幅広くですね、周知していただいて、幅広い参加を、声掛けをなるべく早めにしていただいて、あらゆる方の声を拾うという、ともにその参画しているという町民の意識を醸成していただければというふうに思います。

審議会会長

ありがとうございます。委員、今うなずいていらっしゃいましたけど、何か同じような考えはございますか。

委員

前回のワークショップの際に、我々にぎわいづくり委員会がファシリテーターをそれぞれ部門ごとに勤めさせていただきました。これも先ほどの委員さんの意見にもあったんですけど、本当に前回お顔ぶれが一緒っていうか、あとは手法として、どれだけ模造紙と付箋を使ったんだろうと。毎回毎回ぺたぺた貼って、一体それがどういう形になっていったのかなっていうのかな。今一つ私としてはですね、結果として見えてこなかった。他の何かしらの意見を集約するにあたっては、他の手法というものが無いのかなという。あと人数的に、前回さほど地域を問わず集まったと言いながら、これだけで住民の意見が集約できるんだろうかっていうぐらいの人数だったような気はするので、できる限りやはりせつかくの機会、そう回数がこれ1回ですか、ワークショップとしては。1回もしくは最大3回、2回か。でき

る限り住民の方々、多数参加をしていただいて、幅広く色々な方の意見をいただけるような工夫が必要じゃないかなというふうに思います。

審議会長 まだその開き方とか、どういう方にお声掛けする方法とかは決まってない感じがすかね。ワークショップについては。

事務局 ご質問ありがとうございます。ワークショップの開き方については、先ほど委員さんの質問にお答えしたとおりですが、当然、委員さんから言われたブレインストーミングをいっぱいやって、じゃあどうなるかっていうやり方とかは、ちょっと変えてやっていきたいなというふうには思ってます。また、ワークショップをどこどここの日にここに集まって、皆さん集まってやっていきたいと思いますというやり方もそうですが、今こちらの方の構想の段階ではありますが、この審議会、当然公開となります。昨年、今年度に鳴峰中学校さんが、町の課題解決ということで発表の方をしていますし、また中新田高校が学校魅力化の関係で、探究学習の一環で地域創造学に取り組んでおりますので、その生徒の参画ということで、例えばこの審議会をオンラインでつないで、検討していただいている内容を見ていただいて、それぞれの学校に投げかけて、中学生目線、高校生目線で意見を聴取するなりのことにつきましては、内々で調整をしております、中学校の方には内諾の方はいただいているという状況でございます。そういった手法も取り入れながら、ちょっと今までのやり方等を工夫しながら、町民の声の意見聴取を進めていきたいというふうに考えております。

審議会長 はい。ありがとうございます。他に意見はありますか。はい、どうぞ。

委員 今聞いていてすいません、私の個人的な意見かもしれないんですけど、ワークショップ総合計画という大きい枠組みだけのワークショップだと、多分一般市民は難しいかなと。例えばこちらに集まっていたらいる各分野のそれぞれの方たちの、例えばですね、私考えたんですけど私個人で子育て世代の強い分野の方たちのワークショップ、教育関係でいろいろ仕事をしていただいた方たちの教育関係のワークショップ、あとは社会福祉関係でお強い方たちのワークショップと、あとは観光業とか農業畜産とかブランド関係、そういうワークショップのワークショップをワークショップっていう例えばグループを作っていたら、それに伴って子育て世代はこういう時期で、この子育て世代が集まれる時期時間を考えていただき、ワークショップをすると、農業関係の携わる人たちのこの30人のトップにさせていただいて、この方たちのごめんなさい話が分からないかもしれないんですけど、農業関係の人たちが集まっていたら、集まったワークショップっていうのを時期をそれぞれ住民が分かりやすいところで、自分たちが悩んでいるところに参加できるグループを作っていたらいいなと思って思いました。お願いします。

審議会長 はい、ありがとうございます。いやまさにですね、この資料の5番の策定体制のところをもう一回見ていただけますか。4番のところに総合計画策定ワーキンググループ庁内組織ってあって、各担当課の皆様方のグループが5グループできると言

うと、5グループができる予定なんですよ。一つはこの5グループそれぞれに担当課の庁内でいろいろ実践的な実現可能な政策を話し合われると思うんですが、それに対応するような形で住民の皆様方が話しできるとか、そういう場ができるといけないう感じはするんですけどね。ちょっと乱暴な話なんですけど、ワーキンググループが今①保健医療福祉②生涯学習③産業・交流④生活基盤、⑤環境・エネルギーと5つありますけれども、例えば今ここにいらっしゃる皆様方の中でも、どこかのワーキングに関わって意見を出したいとか、あるいは庁内で話し合っているところの内容と一緒に確認したいとか、そういう場が出るともうちょっとこうです、総合計画策定ワーキンググループのところに、いろんな意見が届けられるかなという感じはちょっとしたんですが、すみません。これはジャストアイデアでした。どうぞ。

委員 議題1の、前議題のところで要項案をいただいたと思うんですけど、6条に関して部会を定められるっていう形であると思うんですが、今、委員さんが言っていたような形で進めるのであれば、仮に今日とかである程度部会を方向付けしたりできると、進めやすいんじゃないかなというふうに思いましたが、いかがでしょう。ちょっと事務局案として、前回作った際に部会があったのなかったとか、含めて進めやすい形の方が、ちゃんとワークするワークショップにできるかなって思いました。

審議会長 資料1の条例の6条のところの部会のところですよ。はい。これで審議会が多く部会として、例えば今こちらにあったような5つのワーキングが庁内組織としてあるので、それに対応するような形で、ここで部会を作ったらどうかということであるんですよ。いかがでしょう。今そんなご意見出ましたけれども、例えばこれは全員がどっかの部会に入るっていうこともあるかもしれませんし、希望されている方が、まずその5つの部会のどこかに入ることができるような形で、どこかに入って例えば2人の部会もあるし、8人の部会もあるみたいな形でもいいわけですよ。どうですか。そのようなご提案いただきましたか。はい。

委員 皆様お忙しいので、こういった皆さん一緒に集まれる場って少ないと思います。スピード感が一番だと思いますので、ぜひ、すみません、私の意見で申し訳ないんですけど、この場でぜひご賛同いただけたら、そういった部会をこの場で作っていただけたら助かります。お願いします。

審議会長 ちょっと部会ごとによってどのくらいの頻度とかどういったタスクがあるかみたいなことは今後調整ということで、まずはこの庁内ワーキング、そういったものに立ち上げたらどうかというご意見については、よろしいですか。反対の方と言いますか。ちょっと反対の方と聞くと手を挙げにくいですよ。はい。

委員 今のご意見に、特殊な話でちょっと申し上げたいと思うんですけど、ワーキンググループがこういう5つのグループっていうことなんですけど、今、最初にありましたように総合計画の基本になったときに、この5つの部分でリカバリーできるの

がこの10年後の加美町の歩みなんだろうかって考えると、これをもうちょっと細分化しなきゃいけないところもあるんでしょうけど、この5つで果たしていいのかなっていうのがあります。それで、なぜ今私こういう話をするかという、実は町長が前にもお話しされていたんですけど、こういう会議だとか集まりをするときには、必ず宮崎地区、小野田地区、中新田地区っていう分け方をするというのがこの町の一つの特徴だし、それが町民のある意味では非常に基本になっているんですけど、町長自身もご自身もお分かりになると思いますけど、加美町を一つっていうふうに考えると、この地域を相変わらず3つに分けて、その地域の人たちは必ず差異があるから、地域の条件もあるから、こういうふうにやるんですというところが、なんとなく暗黙のうちの了解になっていると思うんですね。僕としてこれはもう、これから10年の中ですぐ達成できるかどうかわかりませんが、まず3地区に分けて何かをしましょうとかっていうのじゃなくて、もっとシャッフルしたらいいんじゃないかって気がします。それと、この5つの部分でリカバリーできるテーマが、共通を持って、例えば何か必ずあると思うんですけど、そういうことなんだろうかな、つまり加美町がこれから望もうとする姿、例えば町長ご自身がお考えになることも含めてですけど、この5つの中に自分の方針は全部リカバリーできますということではなくて、そこからなんかいろんな意味ではみ出てくる部分があるんじゃないかって、そのことをもう少し5つの分類じゃなくて、本当はさっきおっしゃったように、もうこの場で決めちゃうのが一番大事だと思うんですけど、一番いいのかもしれないけど、もう少しその辺は検討して、加美町の課題がこのワーキンググループ5つ決めちゃえばほぼリカバリーできるから大体いいんじゃない、それにもうみんな大体面倒くさいことをやるよりは、大体方向決まるからいいんじゃないっていうような持ってきた方もあるんですけど、あえて私が言いたいのは、その10年というターンの中で、10年先を見通したときに、これからの中で本当にリカバリーできるのかなというのが気になります。それと、先ほど町長がご挨拶の中でもお話がありましたように、おそらく加美町がどうというよりも、広域でも考えざるを得なくなっているような状況がいっぱい出てくると思うんですね。その中で、先ほども話に出ました、大衡に半導体の云々ってなってくると、これは加美町がどうしようっていうことよりも、県がどうする。仙台、北部地域はどうするんだっていうふうに、いろんな意味で、もう従来の発想を変えないと、おそらく対応できないようなことってどんどん起きてくんじゃないのかなって。その辺を、我々も含めてですけど、審議の方々が、もうちょっと大きな目を見て、いろんな考え方を持っていけないと、加美町だけちょちょい検討してますっていう話では済まなくなるのかなというところが一番気になります。ですから、いつが悪いという話とかどうとかよりも、もうちょっとリカバリーしなきゃいけないテーマっていうのがあるんじゃないのかなって、そこを本当はもう少し議論する必要があるんじゃないかなというような気がいたしました。以上です。

審議会長
町長

これは町長にご意見を求めても大丈夫ですかね。

確かに先ほどからご議論を伺っておりまして、私の私的な感想として聞いていただきます。部会とかっていうので細かな部分で町民の皆様のそれを広く集めていただいてワークショップを行うっていうようなこと。専門でごとに人を集めてっていうような考え方には大賛成でございます。その中におきまして、こちら辺からちょっと難しい発言になるかもしれませんがやはり先ほど委員さんがおっしゃったことをさらに訳して言わせていただきますと、これからの加美町は絶対加美町のことで考えてはダメになると思います。内向きのことを考えなきゃいけないのは間違いありませんけれども、例えば今回この数年間を見てもですね、ウクライナ戦争があって、そしてコロナがあって、それがもう私たちの日常の生活に直結しているわけです。円安が起きているがために物価高というのもこれ間違いのないわけです。もう逆に言いますとその10年後はどうなるんだっていう、このもう想像力の世界の中でまたはそれはもちろん客観的なものを事実に基づく想像性ですけども、それを考えて手を打っていく、今目先の利だけを取るのではなく、10年後、20年後にどうするかっていうようなことへの戦略がまさにこの総合計画だというふうに思っております。先ほど事務局の方から皆さん町長のような立場でという説明があり、今、私は町長という立場で望まれる町長というぐらいの脳みそで考えられているかどうかという甚だ自信はないんですが、ぜひ私が足りない分の能力値をですね、今日お集まりのこの30人の審議会の委員の皆様お一人お一人の専門的な部分を賜りながら、補充していただければというのが私の考えです。そうなりますと、委員さんがおっしゃっていただいたようにですね、その部会分けっていうのはややちょっと整理させていただいてもいいのかな、というふうに正直考えておりました。委員さんから今すぐっていうふうにもあったんですけども、例えばオンライン会議とかできないのかな。体制としてできないものかなと。時には集まっていたいたり、Zoomでの会議をしたり、部会だったら次のワークショップまで何もすごい長時間2時間3時間ってやらなくてもこういう方法でもいいのかなと思っております。こういう部会をちょっと決めました。または課題って思われるものを整理しました。だからこういう部会ですっていうようなことのご連絡とかまたそのやり取りとかっていうものもそういうふうな部分でフレキシブルに考えてもいいのかなと思って聞いていたところでございます。委員さん回答になってますかね。

委員

はい。今あの皆さんももう認識されてると思うんですけど、DXという問題があったときに、今、町でどういう行政サービスするためにこういう体制整えます。それから町民にもそういう体制をついていうふうになっているんですけど、例えば町の産業を考えていったときに、商業も含めて一番農業なんかそのDXの問題って絶対絡んでくるはずなんですけど、そういう産業界なり業界の枠を超えて、はっきり言う論議していかないとなんか役場のサービス体制を整えるためだけにまた職員も意識するためだけにDXでやるんだってさっていうぐらいの認識しかなくて、あと

は町民の方々にももう少しあのパソコンだとか、スマホもちゃんと扱えるようになってねっていうレベルで終わっちゃうと、それは10年先の話じゃないと思うんですね。そういうことじゃなくて、あらゆる産業の中で含めてDXを検討していく、もうそういう時代に来てるっていう認識は持っておいた方が、これからの町を見ていくときにはとても大事になるんじゃないかっていう気がするんです。だから何とかっていう産業枠で決めるのも片方ではいいんですけど、もうちょっと広域グローバルな形で検討し合うみたいなテーマになっていかないと、農業の方は農業関係だけで集まっているいろんなお話をしましたっていうことではなくて、全く違う、例えば違う業界の方にもね、例えばゲストでコメンテーターで入ってもらおうとかっていう動きで、シャッフルなり揺さぶりをかけていかないと、内部だけのそれと加美町の内部だけでのお話し合いになってしまって、外に広がらないっていうことがあるのかなっていう、だからそれはもう常に大きく言えば世界に向けて発信できるような体制を、どうやって作るのかっていうことも含めての議論が必要だろうと。それから今回人選の中に入っていますし、町としてとても大切なんですけど、子育て支援という問題が入ってきたときに、そこでもいろんな問題が入ってきますよね。単純にお母さんなりお父さんが子供をどう育てるか、それと町の支援体制をどう作るのかっていうことだけではない、次の問題として教育って問題が間違いなく入ってくると思うので、その教育の現場では今どういうことが起きているのか、教育は今こういう状況で、もうデジタルが普通ですよ学校の体制はっていうふうになっていくこともあるわけですから、そういうことを常に枠を越えて、いろんな議論をしていく必要があるんじゃないのかなという気がします。

町長

両方だと思うんですね。もちろん部会のような細かなところと、総合的にそれをいわゆる投与する、もっとファンダメンタルな部分の議論をするといったようなことで、ですからこの30人のメンバーの方々は、いろんな部会から上がってきたやつを、じゃあ高所大所において、基盤となるべき、例えば今の委員さんの言葉だったら、もちろんDXが重要だよと、そこをベースにするようでももちろん構いませんけど、ですからその両方を投与して見ていくっていう回が、ここの場になるのかなと思いますし、その中で既存の小さくまとまらないものをですね、出していただければ、これはありがたいことかなというふうに、両方やっていただきたいと私は思います。私の意見になってすいません。

審議会長

ちょっと整理させていただきますと、最初にですね、ご提案のありましたワーキンググループ形式で部会を作って、具体的な議論をするっていう方向と、今、宮野委員からお話ありました、そのもうちょっと大きい視点でとか、グローバルな視点でとか、それで共通のテーマでしたりだとか、そのファンダメンタルになってお話ありましたけども、全ての部会に関係するような話ですよ、デジタルがとか、SDGsがとか、これ実は他の自治体の総合計画でも、やっぱり部会制を取ったりだとかして、具体的な政策のところまで落とし込んだんですけど、全体に関わる話も

あるよねっていうのが必ず出てきて、それはそれで全体として、もう町全体として、こういったことの方向性は確認しましたよねっていうことで、それを部会にも落とし込んでいくっていう形にはしていったので、今町長もおっしゃった通り、両方をどういうふうにバランスをとって、この中に盛り込んでいくかっていう話かと思うんです。どうでしょう。じゃあお願いします。

委員 この審議会が開催されるのは年4回ほどだというスケジュールの中で、ワーキンググループの仕事はこういったメンバーがこういったことについて会議を重ねていくということで、審議会の仕事は、こういったメンバーがこういったことについて会議を重ねていくということで、この審議会の開催と、このワーキンググループの開催っていうのは、基本的に別だということで認識してよろしいのでしょうか。

審議会議長 そうですね、そうなるんですよ。このあり方からいくと別であって、この30人が一同に会して審議をする会は。はい。

委員 会議の資料としてワーキンググループなり、それから検討委員会であり、その上の策定委員会の出されたものが、この会議の中に持ち込まれて審議がされるというような考え方でいいんでしょうか。そういうイメージかなと思っていました。結局そこがボランタリーな形になってしまうかもしれないんですけど、そうするとせっかく30人の審議の方々、すごく一番最初の自己紹介の中でも非常に活発なご意見をお持ちの方であったり、いろんな考え方を持ってらっしゃる方がいて、その方々が4回しか発言の場がないというのは非常に残念なことなんだろうなというふうに思うんですね。それでそのワーキンググループの中に各々部会を設定して入るということは、非常にいい意見だなというふうに思って聞いていました。ただその5つの部会に各々を切り分けるのではなくて、例えば私たちのように農業関係の人間というのは、当然環境問題にも関わってくる意見というのは相当持っているというふうに思っているんですね。先ほど皆さんが言ったように子育て支援の子育て世代の方々というのは、やっぱり教育の問題であったり持っていけば福祉の問題であったりというふうに、横断している部分って相当あると思うんですよ。ですので一つと言わずその委員の方々が、私このワーキンググループにも行って、いろいろ自分の意見も述べたいし意見も聞きたいんだというようなことを柔軟に、皆様方から発言をしていただいてその分けていただくグループにあまり制限をすることなく参加していただくような方法を取っていただいた方がいいのではないかなというふうに思っていました。以上です。

審議会議長 ありがとうございます。ではちょっと今その5つのワーキンググループということで、事務局からご提案のあったこの5つの切り分けということには、カテゴリーとしてはなっていますけれども、開催する時期とかをずらしていただいて、複数のところに顔が出せるようにするとか、それこそ先ほどお話しあったというZoomとかオンラインでセットできるんだったら、オンラインでも入れるようにということがあれば、参加しやすいかもしれないですが、ここでちょっと事務局の方

にご意見を伺いたいんですが、この5つというのはあれですよ、庁内の組織の担当課のグルーピングかなと思っていますが、それがどうなのかということと、あともう一つは今ご意見があったとおり、例えば庁内での話し合いとは別にオープンにといいますか、庁民の皆さん方も入っていただけるような場を設定していただけるかというところなんです、そこはいかがですか。

事務局

はい、ご質問ありがとうございます。会長さんからご質問があったですね、資料の策定体制のために、5番の2から4が町の職員の組織体制ですよということになります。先程、委員さんからご質問のありました、部会制につきましては条例上必要があると認める場合は部会を設置するということですが、10年前の2期計画策定時には、部会は設置していません。職員のワーキングなり、ワークショップ等で意見を吸い上げた上で、計画が策定されているというような記録を確認させていただいております。皆様方と例えばいろいろ10年前とか1期計画なのか、20年前なのか本当に携帯電話もガラケーからスマホになって、さらにiPadとかそういった、例えば審議会の回数は4回であるものを皆様方資料をその都度提供しながら、あとというのをメールなり、また必要に応じてアナログ方式も使いながらこういうのを意見の方を吸い取っていきなというふうには考えているところでございます。部会、じゃ審議会とはまた別にこのグループの部会を開くかどうかというのは、ちょっと検討させていただきたいと思っています。

審議会議長

この場で条例の6条にあるような部会を作るかどうかというのは、要検討というスタンス、先ほどもお話あった通り、各ワーキングが何回かこう対面なりオンラインなりで、参加しやすいような場を作っていただくと委員の皆様方に参加できるようなことになるんですけど、それは難しいですか。善処するような形での検討ということですのでどうでしょう。じゃあどうぞ。

委員

この部会もそうなんですけど、一般住民の方が意見を取りやすい場所っていう部分を、取りやすいという意見を言いやすい場所を求めるための部会かなって思ってます、部会どうこうじゃなく、やっぱり住民の人たちは、その例えば私ですと産業関係です。今やくらいハイツで働いています。そういう観光業のこととか、子育てのことに対していろいろ皆さんと話し合っ、こういう風になつたらいいよねっていう場所がないっていうのが一番なんです。そういうところを同じ意見を共通できる場所っていうのが必要かなって思っています、それに対してこの皆さんがちょっとそういう部会に入っていただいて、そういう意見がありますよっていうところをここの会議で発表していただいて、どうしていただけたらなって思っている場所を欲しいっていうところで、すみませんお願いします。

審議会議長

ちょっとこの場でですね、それを結論付けて誰がどの部会でっていうのはちょっと難しそうなので、事務局の方とも話し合いをして、とにかく住民の皆様方が直接意見を出せるとか、それがまたこの場にも出てくるような仕組みを作ってほしいということで、まず調整させていただくということによろしいかでしょう。それとは

別にまた住民ワークショップっていうのも一応は計画されているようなので、それをもっとオープンに広く何かその機会を作らなきゃっていうことかと思われますが。じゃあお願いします。

委員 すいません。今のお話がちょっとずれるかもしれないんですけど、私の個人の意見としては、多分そういう場所にあったりとか、集まって意見交換をしてお話しする方がいい方と、やっぱり子育て世代の方はやっぱり子育てが忙しかったりもし、なかなかそういう場に顔を出せないという方もいらっしゃるかと思います。そういう時に例えば今 SNS じゃないですけども、そういうので意見交換などそういうのは難しいとは思うんですけども、例えば自分の意見として町の方に挙げることとか、そういう意見交換などそういうのは難しいとは思うんですけども、自分の意見として町の方に挙げることとか、そういう意見交換などそういうのができたりだとかそうすると若い世代の方々もそうですし、よりたくさんの意見が聞けているのではないかなというふうに思いました。

審議会長 ありがとうございます。それでは今いただいた意見をですね、別の形で今使われている SNS とかでも、上げやすいような仕組みができないかというご意見として挙げさせていただきたいと思います。では、お願いします。

委員 すいません、何度もすいません。資料の 42 ページと 43 ページ総合計画のところに町づくりの重点プロジェクトというのがあって、おそらくこれが総合戦略の方につながって 10 年前はいったんだと思うんですね。次の総合戦略の方につながって、次の審議会は素案がちょっと上がってきて、それを全体を検討する場になってしまうと思うので、やはり継続性というものも非常に大切かなと思っています。ゼロからとは言いつつも、やはりこの 10 年前の計画が実際どのように実施されてどの程度達成されているのかというのが、私たちも知りたいと思います。そういうところなんですね、多分分野ごとに目標とすることは、10 年前と大切なことというのは根本的には変わらないことが多々あると思うんですが、それがどの程度達成できているのかという計画はここに資料としてあるんですけども、実際これが実施アクションがどの程度されてそれがどのような成果を生んでいるのかっていうその後ろの 10 年後の今の現状の状態はもちろん、町民の皆さんにアンケートとかヒアリングはするんですけども、この町としてこの 10 年間でどのように評価しているのかっていうのを、資料として事前に頂ければ次の素案に対しての見方ができるのではないかというふうに思います。加美町のホームページを見ますと、行政評価が公開されているのが、令和元年のものが載っているだけで、議会では行政評価が細かく見られると思うんですが、私たち一般町民はその実際評価がどの程度の達成率っていうのがちょっとわからないので、そういったものを細かいものは難しいとは思うんですけども、10 年前の計画がどの程度達成できているのかっていうのを資料として次回ご提示いただければ。これは要望です。

審議会長 ありがとうございます。それは事務局の方いかがですか。ご要望ありましたが。

事務局

ご質問ありがとうございます。その辺の達成状況等ですね。次回までの委員会に資料として整理のし、多分すべて送っちゃうと相当なデータになってしまいますので、ちょっと整理した上で対処したいというふうに思っています。一応、あの町のその総合計画を受けてですね、まあその三本柱の話、私資料の方で説明をさせていただきました、町の実際に取り組みに関して、その基本構想、基本計画を受けて実質の実施計画であり、さっきもハード面の事業とか、ソフト面の町のその担当課において、町で実際500本ぐらい事業がある具体的な計画があります。参考までに、令和3年度までの執行状況につきましては、それぞれの施策の分野につきましては、進捗率が違うんですけども、特に後期の計画の執行状況につきましては、だいたい67%の執行状況だということでの実績はお知らせしておきます。

委員

何回もすいません。その事業の実施状況で、評価されて実施しましたということ、例えば実施をすれば100%というふうに考えた場合ですね、実際は事業を実施して、その成果がどの程度上がったのかという評価をしなきゃいけないと思うんです。それは非常に難しく、多分職員の方々の評価ではなかなか捉えにくいと思うんですね。ですので、やはりそれはご専門の先生方がちょっと見ていただいて、ある程度の評価をいただかないと難しいのかなと。例えばですね、男女共同参画でも参加していますけれども、その講演会を開催しましたと。実際開催をして、どの程度男女共同参画の意識が向上したのかという成果というのは、なかなか難しいとは思いますが。アンケートの結果とか見てということなんですが、このまちづくり重点プロジェクトというのは、10年前に掲げた共生・協働・自治というものが、どの程度達成できているのかということ、肌感覚ではわかるんですけども、まちとしてどう評価しているのかということ客観的に知りたいというのが一番なんです。非常に難しいとは思いますが、そのあたりをぜひ先生方、学識経験者の方々に見ていただいて、どの程度の達成ができているのかということ、ぜひご助言いただきたいと思います。

審議会長

例えば一つは、このブルーのファイルのですね、中の資料の後ろの方に、加美町まちひとしごと創生総合戦略のコピーが入っているのですが、その資料の43ページ、44ページあたりのところに、一応KPIと言われている指標を持って、その重点事業がどのぐらい達成されているのかというのが、チェックが入るんですね。これは、ちょっと本当にこの数字で、この事業が達成されたのかということのような問題もあるにはあるんですが、この総合戦略に関しては、このような形で進捗のチェックはされていると。先ほど500事業あるというふうにおっしゃったんですが、500事業全部にKPIがあるわけではなくて、その辺のところではやったかやらないかとか、どの程度達成できているのかというのは難しいところもあるんですが、重点事業にあたるこの総合戦略についてはこのような形で審議会が行われているような状況でございます。先ほどご質問にもありました総合戦略のほうは5年ごとにこの10年という総合計画の5年ごとにこれをやっていくという形になってい

るので、上位計画の総合計画に対してこれがその下にぶら下がってくるところですかね。同じようにこの資料の中にも国土利用計画が入っていますが、土地利用についてはやはり総合計画とすごく密接な関係があるので、同時に中身もこの審議会で見えていただくということになるかと思います。

そろそろ時間が迫っているところなのですが、まだ委員の皆様が全員からお話を順番に伺うというのは時間がなさそうなのですが、ちょっと今議論があったところ以外のところでも構いませんので。議事の1、2あたりも含めまして何かご質問とかご意見とかございませんでしょうか。じゃあお願いします。

委員

私も中身が全然わかっていないのですが、この4回の集まりで実際どれだけのことができるかというのと、とても不安があるのですが、これからは何が入ってくるタイミングとかあると思うのです。次の回がアンケート結果課題検討、基本構想、基本計画案の検討となっているのですが、その辺も全然見えてこないし、アンケートがどういう状況になっているのか、当日渡されても多分対処しきれないと思うので、できればこの日の1週間前とか事前にこういった資料送付なりお届けなりしてもらえると、時間あれば見てこうだあだと考えてくれることができると思うので、そういった対応をお願いしたいというのが一つ。あと加美町の総合計画審議会として、多分今日私参加しているのですが、10年先のことはまず見えないんですね。来年のこともはっきり言って見えていません私は。なので先ほどこの先どうなるかわからない、町の外が変わるかもしれないとか、色んな話があったのですが、加美町って自然が豊かなのでアウトドアの街とか、そういったふうにするのですが、そうじゃなくて10年間ぶれない計画を練っていかないと加美町らしい加美町だと言えるような計画をねっていかないと、周りの環境に逆にぶれないような計画をねっていかないとダメなんじゃないかなと、さっきお話を聞いていて思ったので、その辺そういった方向でいいのか、もしくはもっとオープンにいろんな県レベルから考えなくちゃいけないのか、ちょっとその辺がまいち私の中でわからなくなってしまったので、できればぶれない加美町をつくるという答えを期待するんですが、そういった方向でいってよろしいものなのかというところの確認です。以上です。

審議会長

はい、ありがとうございます。これは私がお答えすべきことかどうかわかりませんが、すごく大事なことだと思います。私も先ほどちょっとDXがとかSDGsがとかって話しましたが、どこの町も書いてるんですよ。どこの町も政策的にそれは書くんですけど、本当に加美町なりの総合計画をきちんと作って、ぶれないっていうのはすごく大事な視点だと思います。そういったところはきちんとですね、どういった形で今度は新しく作るこれに盛り込んでいかっていったところをですね。いろいろとご意見を出していただいて、このイメージ図の三角形ありますけれども、多分この一番上、てっぺんの基本構想のところとかですね、なんか理念みたいなのか、キャッチフレーズとかがですね、だんだん最終的に決まっていく

んですけれども、そういったキャッチフレーズや理念とか、本当にみんなで共有できる加美町のぶれないところとか、変わっていかなくやいけないところとかっていうのをきちんと出すようなですね、会になるといいかなというふうに思っております。ご意見ありがとうございます。はい、じゃあお願いします。

委員 すみません、資料を見ていて、ちょっと見えてこないのがお金の部分なんです。前回の計画のときの収支の結果というところと、実際のところ、お金の収支のどういう状況かということが、どこか加美町のホームページとか見ればわかると思います。そういったことがあるのかと思うんですけれども、これからのことを考えるにあたって、やっぱり希望、要望を出すのは、これもしてほしい、あれもしてほしいっていうのは簡単なんですけど、やっぱりお金、例えば子育て支援でこの前も遊具がない、遊具を作してほしいと言っても財源がないっていうところであれば、何も達成していかないと思うので、私たちも含めてそして一般の方もお金の部分も考えていかないと、何も町としてのこういう町にしていきたいっていうのは達成していかないと思うので、そういう部分も考えるためにも、そういうところを公開してもらえたらなと思いました。以上です。

審議会長 ありがとうございます。今後議論する計画の中にも、加美町の財政状況とか、それともきちんと考慮すべきだということですよ。その辺いかがですか。

事務局 はい、ご質問ありがとうございます。おっしゃるとおりですね。お金がないことには事業が進まないということも正直に本音だと思いますし、ただそれをどの年度にどうやっていくかというのが、我々役場の職員の務めなのかなというふうに思いますし、まちづくりを進めていく上で、この総合計画の基本構想、基本計画、実施計画を定めて、その中で町長の進めたいまちづくりを実現していくというところなので、そのあたりご意見のほうを受けたまわらせていただきたいと思います。なお、先ほど松倉委員さんからご質問があった、本日は顔合わせと概要説明でございましたので、次回以降ですね、その計画の審議会の資料のほうは事前に郵送させていただきます。

審議会長 例えばですね、総合計画ですと最初の頭のほうにですね、これもありますけど、加美町の概況とかいろんなデータを示すんですけど、ほぼほぼ人口とかですね、就業別人口とかそういうデータが一般的なんですけど、財政状況についてもきちんとかういったところを書くとか、そういったことはあるかもしれません。加美町は税収が今こういう状況なんですとかですね。どの程度まで書けるかというはあるかもしれませんけれども、そういったことをきちんと町民の皆様にも見ていただくということはあるかもしれないですね。

ではですね、今日委員にご出席いただいておりますので、最後にご意見とかですね、いただければと思いますが、いかがでしょうか。

委員 今日はいろいろ意見を聞かせていただきました。また一方、計画も説明いただいてぼんやりとですけど、今後イメージができてきたかなと思います。やはり会長

も言われたところですが、基本構想の中で明確な理念、キャッチフレーズを策定方針の①の一番最初にあるところですね、加美町の強みを積極的に伸ばす、それに対する重点的な施策を提示するというのがしっかり見えたうえで、住民とのキャッチボールができるような計画が実行されてくというのかなと感じたところです。

審議会長 ありがとうございます。それでは、そろそろお時間となりましたので、いろいろご意見があるかと思いますが、一旦こちらで締めさせていただきたいと思います。資料を前もってお渡しするとか、宿題がいろいろあったかと思いますが、その辺は事務局の方と調整させていただいて、早めに4回しかないということですので、もうすでにその1回が過ぎてしまいましたので、そういったところ、ワーキングの件も含めて調整をさせていただきたいと思います。では、議事の（3）その他のところがありましたけれども、その他ですが事務局から何かございますか。

事務局 はい、長時間にわたりご審議ありがとうございました。ご質問ありました次回からの会議の案内、その際に会議資料を送付させていただきたいと思います。また2回目の会議を行う前に、例えば意見を整理して、当然会議録も送らせていただきますが、事前に確認したい事項とか、そういったことのやりとりもさせていただきたいと思います。事務連絡は以上でございます。

審議会長 はい、それではですね、一応こちらで議事ですね、その他まで終了させていただいたとさせていただきたいと思います。それでは長時間にわたりましてですね、委員の皆様方、ご意見頂戴いたしましてありがとうございました。本日の会議につきましては、これで終わりとさせていただきたいと思います。

では、副会長からですね、閉会のご挨拶をいただきたいと思います。

審議会副会長 今日は長時間にわたりまして、活発なご意見ありがとうございました。これからの10年の加美町を見据えてですね、どうぞこれからもいろんな各方面から様々なご意見をいただければと思います。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

事務局 以上をもちまして、第1回目の加美町総合計画審議会を終了と致します。

－ 閉 会 －